

令和3年度 学校関係者評価報告書 (評価対象期間 令和2年度)

令和3年6月
岐阜県立森林文化アカデミー

1 学校関係者評価の実施方法及び公表について

学校関係者評価の実施にあたり、令和3年6月21日に学校関係者評価委員会を開催し、「令和2年度自己評価報告書」について、自己点検評価の各項目に対する評価とご提言をいただきました。多くの貴重なご意見やご指導に対して、感謝申し上げます。

その評価及び提言等について学内で検討を行い、今後の対応として整理しました。

評価結果について、本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、それらの質の保証と向上に継続的に努めるとともに、ホームページ等で公表します。

2 学校関係者評価委員

委員名	摘要	区分
谷 基 氏	岐阜県高等学校農林校長会 会長	教育関係者
川 邊 武 氏	中津川市森林組合 代表理事組合長	関連業界（林業）
美谷添 里恵子氏	白鳥林工協業組合 代表理事	関連業界（林産業）
石 橋 明 世 氏	ぎふの木の住まい協議会事務局長	関連業界（建築）
平 野 昌 彦 氏	岐阜県林政部林政課長	行政機関
伊 藤 栄 一 氏	NPO 森のなりわい研究所代表	学識経験者
長谷部 美紀氏	エンジニア科保護者	在校生の保護者
吉 田 理 恵 氏	2017年度クリエイター科卒業	卒業生

3 評価結果

(1) 評価項目ごとの評価値

評価項目	評価値	評価結果
1. 教育理念・目標	4	適切
2. 学校運営	4	適切
3. 教育活動	4	適切
4. 学習成果	3	適切
5. 学生支援	4	適切
6. 教育環境	4	適切
7. 学生の受入れ募集	4	適切
8. 法令等の遵守	4	適切
9. 社会貢献・地域貢献	4	適切
10. 国際交流	4	適切

※評価値：適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(2) 評価項目ごとの意見及び対応方針

別紙のとおり

(3) 総評

学校関係者評価委員会では、10つの評価項目全てについて「適切」であると評価を受け、総合評価として「適切」であると評価をいただきました。

しかしながら、評価項目の中には、今後の改善に努める必要がある項目も含まれていると考えています。

今回の評価でいただいたご提言やご意見等を踏まえ、定量評価ができる項目は、数値目標を示して評価をしていきます。また、早期に改善可能なものについては今年度から実施し、中長期的な取組を要する事項については、効果及び実現可能性を検討の上、対応していきます。

令和3年度学校関係者評価委員会における委員の意見
それに対する本校の対応方針

評価項目	評価	委員の意見等	対応方針
(1) 教育理念・目標	4 (適切)	(特になし)	
(2) 学校運営	4 (適切)	<p>・昨年度の委員会の意見の対応方針に環境的に24名が受入れ可能とされているところ、今年度26名合格させているが、先生方の働き方改革が言われる中、適正な人数なのか。入試回数が多いのは受験する側としてはチャンスだが、線引きが明確にならない。見直す必要があるのではないか。</p> <p>・全国的に林業関係の専門学校等が増えているので受験者が減るのではないかと心配していたが、どうして優秀な方々が集まってきたのか。広報がよかったのか。</p> <p>・なぜ、エンジニア科の県内就職率が80%に届かなかったのか？感覚的でいいので教えていただきたい。</p>	<p>・クリエーター科については、合格基準を上回る学生が多かったため、判定会議により受け入れた。</p> <p>・入試は原則2回実施し、必要に応じて追加試験を実施している。各回とも基準を定め、適切な判定に努めている。</p> <p>・オープンキャンパスを2回開催したほか、毎年実施していた都市部でのセミナーがコロナ禍でできなかったため、HPでオンラインセミナーを告知し、各専攻で2回ずつ実施した。非常に盛況だったので、引き続き、対面に加え、リモートでも実施していく。</p> <p>また、自治体との連携に力を入れており、連携市町が、本校のPRや入学生に対する支援制度を設けていることも効果的と考える。</p> <p>・県外出身の学生は地元で就職する機会が多いことが理由の一つと考える。コンソーシアム会員企業等による企業説明会の開催など、引き続き県内企業とのマッチングに努めていく。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイター科の受験資格は、22歳以上と書いてあるが、エンジニア科からの編入は年齢的にできないのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジニア科からクリエイター科への進学は可能。教員の推薦とエンジニア科での成績により、教職員会議で受験資格を判定する。エンジニア科で基礎を学び、クリエイター科で専門的に学びたい学生に対応している。なお、前々年度及び前年度に各1名が進学している。
(3) 教育活動	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートで授業を評価し、自己評価「4」としているようだが、学生による授業評価はかなり高いと解釈しているのか？アンケート結果はオープンにしているのか？説得力のある自己評価の根拠があるといい。評価手法と表現手法について検討するといいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンはしていないが、次年度の授業に反映できるよう努めている。なお、評価手法や表現手法については今後検討していく。
(4) 学習成果	3 (ほぼ適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率は100%に近ければ近いほどいいだろうが、就職先をきちんとあてがうことが果たしているのか。離職率が最近気になっている。離職率は学校では把握しているか？ ・社会活動の他の模範とは具体的にどんなことが取り上げられ、表彰を受けたのか。どこがよかったのか。 ・例えば、メディアに取り上げられた回数とか、外部から表彰を受けた回数とかを挙げたほうがいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・離職率は把握していない。全卒業生に対するアンケート調査を行っており、連絡可能な卒業生が本校のHPで情報交換できる場を設けるなど、ネットワーク作りを支援していく。 ・学長賞には、ドイツのロッテンブルク林業大学に1年間留学し、先方の大学で極めて高い評価を得た学生を選出した。学長奨励賞には、全国の木工道具の調査をまとめ、本にした木工専攻の学生と、チェーンソー技術の全国大会で一番優秀だったエンジニア科の学生、他の模範となる設計を発表し優秀な成績を修めた木造建築専攻の学生を選出した。 ・新聞等マスコミで取り上げられた回数や学会の評価など、具体的な数字や名称等が挙げられ

		<p>外部の評価がどうなのかを、より積極的に記入するほうがいい。</p> <p>・木造をやっている学校が少ないが、木造建築の学生向けのコンクールを滋賀県で行っており、著名な建築家が審査員で各大学から応募がある。そういうコンクールにチャレンジされるといい。</p>	<p>るものも積極的に評価していく。</p> <p>・現在も木造建築分野の学生が外部のコンクールなどに出品しており、対外的な評価は大きな励みとなることから、今後とも積極的な参加を促していく。</p>
(5) 学生支援	4 (適切)	<p>・エンジニア科の娘は実習で山に入ることが多く、先日も丸太が上から転がってきて脛に当たるなど、危険と常に隣り合わせなので、チェンソーを使う時は、命掛けでやっている感じで親からすると心配である。例えば、蛇にかまれたとか蜂に刺されアナフィラキシーなどへの対応や講義はなされているのか。</p> <p>・森林組合では危険予知とかKYの報告をして次に備える。林業は現場が毎日変わるし、雨の日は滑りやすい。チェンソーはカバーしていても危険なので注意が必要。</p> <p>・授業で現役消防士が講師の「救急救命法」があり、非常に実践的な授業だった。何かあった時には、学生同士で協力しあって対応でき、外部からでも参加したいと思う素晴らしい授業だった。</p> <p>・公務員試験を受けたい生徒に対する指導は、どのようにやっているのか。資料を提供しているのか。過去問は各高校か</p>	<p>・蜂アレルギーについては、健康診断でアナフィラキシーショックの検査を行い、結果を学生に提示し対処法も説明している。</p> <p>安全対策については、授業で繰り返し指導しており、特に 危険を伴う伐採作業については、VRで実際にあった死亡事例を体験するなど、最新の技術も活用しながら危険回避の学習をしている。</p> <p>演習林には 100～300mおきにポストが設置しており、事故発生時にいち早く近くのポストへ救急車が到着するよう消防署との連絡体制を構築している。</p> <p>・「救急救命法」は、非常に重要な内容であることから、引き続き授業として実施していく。</p> <p>・県職員出身の教員が中心となり、学生からの質問に答える形で指導を行っている。本校には</p>

		<p>らもらって勉強しているのか？</p> <p>・緑の青年就業準備給付金に関してはどうかと思う。「3年お礼奉公したのでもういいわ。」という学生もいると聞いた。金額が高額なので、選考する時に、給付金が本当に必要なのか、有効に使われるかどうか検討しなくてはならないのではないか。生徒を選ぶ必要がある。</p> <p>クリエイター科は仕事をやめて入ったので経済的に必要かもしれないが、エンジニア科は大抵は何百万円も必要ないのではないかと思う。</p>	<p>公務員用の教材や過去問はなく、高等学校の資料を使用し、指導している。</p> <p>・他の奨学金には成績優秀かつ意欲ある学生を推薦しているが、緑の青年就業準備給付金は国の制度で、一定の就学時間を修めたと認められれば支給される。林業、木材産業に関する技術だけではなく、社会に出て活躍するための姿勢、能力を合わせて身につけるよう指導していく。</p>
(6) 教育環境	4 (適切)	<p>・そもそも劣化した木造建築物を直す人材を育てる学校ではないかと思っており、新しい建物を建てるより、直せる実践的な学びを授業の中でやることはできないのか。</p> <p>自力建設も修繕リノベーションという形でやり始めた。いろいろな危ない箇所も学んで直してくれたらいいと思う。</p>	<p>・「メンテナンス実習」という授業の中で、リノベーションの実習を実施している。</p> <p>自力建設でも今後は、過去に建設した施設の修繕やリノベーションにも取り組んでいく。</p>
(7) 学生の受入れ募集	4 (適切)	<p>・建築関係では今、建築を学ぶ学生が少ないため、採用するのが難しい。農林高校以外の高校生はアカデミーが建築を学べる場であることを知らない。岐阜県で建築を学べる高等学校以上の学校はなく必ず県外に出ていかなくてはならない。県内で建築をやっていく子を育てて欲しいと思うし、建築に進んでくれる学生が増えるといいと思っている。林業の学校ではあるが、建築の学校でもあとと広めていただけたらありがたい。</p> <p>・高等学校では、今年4月の入学者で農業関係の定員が減った。このあと数年の間で子どもの数が大幅に減ることがわか</p>	<p>・引き続き、農林高校に限らず工業高校や普通高校に出向き、本校のPRに努めていく。なお、高等学校からクリエイター科木造建築専攻へは直接進学できないため、エンジニア科からの進学になることを含めて説明していく。</p> <p>・子どもの数の減は直接入学者数に影響してくるが、一方で森林技術者 950 人で県内の 80 万</p>

		っている。この先、子どもが減っていくことに対する中長期的なビジョンなどどのように考えているか。	ha の森林を守っており、絶対的に不足している。アカデミー改革プランのリニューアルを考えており、今の前提条件を踏まえて課題を共有し検討していく。
(8) 法令等の遵守	4 (適切)	・法令順守は2項目だけでいいのか？アカデミーに関わる法令を全て挙げるべきではないか。アカデミーとして大事にしたほうがいいことを検討していただきたい。	様々な法令がある中で、関係する法令の重要度を検討し、今後、挙げていく。
(9) 社会貢献・地域貢献	4 (適切)	<p>・貢献として、市町村に対する支援的な立場でプログラムを提供していると掲げているが、提供するのではなく、一緒にやっていくこともいいのではないか。諸団体との連携を数値目標として挙げて広げていくのもいい。地域で成功して活動している人がいるだろうし、先方がやりたいことをうまく取り上げて教育の中に活かしていくとか。連携に対する取組評価を挙げて進めていけるといい。検討いただきたい。</p> <p>・森林サービス産業化という話があるが、産業としてパイを広げると就職先の確保や地域の人たちの活力にもなる。その中でアカデミーとして果たせる役割を挙げていただきたい。</p> <p>・森林・林業を高等学校で教える先生方がスキルを高める専門的な技術講習を開講される際は、高等学校長あてにも文書を出していただきたい。</p> <p>・地域の課題は複合的・総合的であると感じている。森林環境教育は保育園と森との関りだけでなく、福祉なども関ると思っており、福祉部にも情報提供すると違う形で地域課題を</p>	<p>・森林教育を全県的に普及していくためには、地域で活動する団体と連携していくことが不可欠である。現在、各地域に出向く「出前型森林教育」を考えており、地域団体への教材の貸出などを通じて、効果的な森林教育プログラムの提供と指導者の育成に努めていく。数値目標とするかは今後検討していく。</p> <p>・森林教育研修については、県の教育研修課と連携して、高等学校や小中学校、幼稚園の先生向けの研修を10年ほど実施している。 林業などの専門技術者研修について、高等学校にも積極的に案内するようにしていく。</p> <p>・森林教育は裾野が広く、現在連携している幼稚園・保育園・特別支援学校などの教育分野に加え、福祉分野との連携も可能であり、市町村</p>

		<p>示したり、解決方法を一緒に考えられるのではないか。広い視野で考えていただくとありがたい。</p> <p>・他県の林業系大学や専門学校と連携があるが、地元の岐阜大学とあまりできていない。岐大に新しく学環「地域経営システム」ができ、地域マネジメント、地域経営で課題を共有できるし、「地域教育センター」にも広い分野で地域課題を解決する人材もいるので、交流ができる気がする。いろいろな課題に卒業生たちが入っていける様々な分野を作っていけるといいのではないか。検討いただきたい。</p>	<p>福祉関係部署との連携など、いろいろな分野と森をつなげることを検討していきたい。</p> <p>・岐阜県域農林業教育システム連携協力会議を活用し、課題を共有して連携を図っていく。</p>
(10) 国際交流	4 (適切)	<p>・留学した学生と交流があるが岐阜県の林業をこれからどうしていくかといった大きいことも考えていける人を育てるのに留学はとていい。毎年一人ぐらいは行かせてあげるとすごくいいのではないかと思う。</p>	<p>・海外への留学は視野の拡大に効果的であり、連携先のドイツのロッテンブルク林業大学のサマーセミナーなど、今後も積極的に参加するよう促していく。</p>
その他		<p>・全体的に自己評価を見て印象に残ったのは、定量的な評価があまりないということ。数値目標がない中でどのように評価されているのかわかりにくい。結果的に高い評価になるような自己評価シートになっている気がする。定量的になじみにくい項目もあるので難しいが、説明する時に数値を出すと説得力がある。評価の表現の仕方を工夫するといいいのではないか。</p>	<p>・評価の仕方として定量的に行える項目と定性的にしか行えない項目があるが、定量的な目標は、対外的に説明しやすく、目標設定もわかりやすいことから、来年度に向けて検討していく。</p>

評価項目	委員の意見等	対応方針
専門技術者教育	<p>・地域森林監理士を養成しているが、各市町村がどう使っているかが重要で、市町村の体制を育てていかないとうまく使</p>	<p>・市町村には林務行政を専門的に担う職員はなく、人数も不足している。</p>

	えない。県の支援をもう少し強化しないといけないケースがあるやに聞いている。	<p>本校では、市町村林務行政を支援する地域森林監理士を昨年度までに23名養成し、本年度も5名が研修を受講している。</p> <p>市町村に対して、地域森林監理士を効果的に活用している事例や、森林経営管理制度の運用、森林環境譲与税の具体的な活用に向けた研修を実施していく。</p>
生涯教育	<ul style="list-style-type: none"> ・県が育成している推進員と指導員がモリノスや木遊館で活躍できるようにしていただけるとありがたい。推進員8名のうち7名が卒業生。指導員は、卒業生も含め大体40名で木育協会に入っているが、活躍の場が少ないので、協会からも離れていく状況。仕事として取り組むのは難しいかもしれないが、一翼を担う存在として長く関わってほしい。 ・民間でも環境教育を行っているが、助けてほしい時はどこに言ったらいいか分からない。木育を手伝ってくれ、コーディネートしてくれるところがあったらうれしい。 <p>木遊館に指導員はいても、情報がなかなか行き渡らない。協会としては、網羅できているので、どのように繋げていくのか模索中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林教育の相談窓口になることはモリノスの役割の一つと考えるが、全体をコーディネートする仕組みになっておらず、現在は情報を持っている人同士が連携している状況なので、今後は、モリノスがコーディネートできるよう検討していく。
産学官連携(コンソーシアム)	(特になし)	